

これまでに2回、秋川の魅力を紹介してきましたが、今回は秋川の上流部にある支流河川や沢の見どころを紹介したいと思います。

秋川に流れ込む養沢川や盆堀川などの秋川支流の上流部には、今なお浸食が続いている傾斜の険しい沢が多く見られます。実際に調査で沢の奥に向かうと、登っている斜面の岩が剥がれやすかったり、斜面一面に手のひら大の石が堆積して足元がとても崩れやすかったりと、身の危険を感じつつ大地の浸食を目にします。まれに、このような危険な場所を越えた先で、水量は少ないが3～4桁の落差のある滝やそびえ立つ岩壁（露頭）に遭遇したりします。長い年月をかけ、自然が創り出した造形美には圧倒されるばかりで、つい立ち止まって見入ってしまいます。

実はこのような危険な思いをしなくても、比較的安全に鑑賞できる岩壁が大岳鍾乳洞の近くにあります。知る人ぞ知る大岳沢の小滝一帯の岩壁です。大岳沢の水が岩肌を削って滑り台のような地形を形作り、沢の壁面には大地の力で曲がった地層の模様を見ることができます。非常に硬いチャートという岩の層が大地の変動でぐにゃりと曲がった様を見ていると、いったいどれくらいの年月をかけて形成されたのか、地球の果てしない歴史の流れを感じます。この時期は氷と岩が織りなす景色が観賞でき、真夏にはひんやりとした雰囲気の中で清流のせせらぎが心地よく感じられることでしょう。

1回目の「秋川の見どころ」で河原での石ころ探しを紹介しました。その中で、河原に黒くてずっしり重いマンガンの塊が落ちていないか探し回っていると書いたのですが、ついに養沢川の上流で発見しました。大人の拳2つ分ぐらいある黒い石はずっしりと重く、感慨深い発見となったのですが、ただ一点、第一発見者が私ではなかったのが悔しい限りです。

(佐々木)



大地の力で曲がった地層